

基本目標9 生涯を通じた健康の保持・増進のための支援

男女が互いの身体的性差について理解を深めつつ、健康を生涯にわたり保持・増進していくための包括的支援や心身の健康に関する学習機会の提供を行います。

施策の基本的方向・具体的施策・施策内容

18 生涯を通じた健康の保持・増進のための支援

(48)健康保持のための事業の充実

- | | |
|-----|---|
| 134 | ライフサイクルを通じて性差に伴う健康上の問題に直面することについて、社会全体の認識を高めるための啓発や情報提供に努めます。 |
| 135 | 妊娠・出産期における健康支援を充実します。 |
| 136 | 乳がん、子宮がん検診の重要性について周知するとともに、検診を受けやすい環境の整備に努めます。 |

(49)性差に応じた健康支援の推進

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 137 | 性差による疾病や症状等に対し相談に応じるなど、健康づくりの支援に努めます。 |
| 138 | 性差に応じた相談しやすい窓口の整備や情報提供に努めます。 |

19 こころとからだの健康に関する学習機会と情報の提供

(50)リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)という考え方の浸透

- | | |
|-----|---|
| 139 | 多様な機会を活用し、リプロダクティブ・ヘルス／ライツについての啓発に努めます。 |
|-----|---|

(51)子どもの発達に応じたこころとからだの健康づくり

- | | |
|-----|---|
| 140 | 発達段階に応じて性教育を推進します。 |
| 141 | 保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を高めます。 |
| 142 | 子どもの発達段階を踏まえて、妊娠・出産やHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒、性に関する正しい知識を身につけ、適切な行動がとれるよう、学習機会の提供や指導に努めます。 |

(52)健康保持のための健康教育、健康相談等の推進

- | | |
|-----|---|
| 143 | 健康づくりや健診・検診に関する情報を提供するとともに、健康教育や健康相談の充実を図ります。 |
| 144 | コミュニティデイハウスやいきいき交流広場など、高齢者の介護予防とリフレッシュを目的とした住民主体の通いの場づくりを支援するとともに、通いの場への参加を促進します。 |

(具体的施策 48)健康保持のための事業の充実

	施策内容	令和5年度事業の取組と実績	令和5年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
134	ライフサイクルを通じて性差に伴う健康上の問題に直面することについて、社会全体の認識を高めるための啓発や情報提供に努めます。	広く市民等を対象に、男女共同参画に関する講座等を開催した。 〔実施講座名〕ゆるやか女子会(生きづらさを感じる女性対象講座) 〔実施日〕4月～3月 （月1～3回・全34回） 〔参加者〕のべ199人 〔実施講座名〕私のモヤモヤスッキリ！感情ケア講座 〔実施日〕毎月（全6回） 〔参加者〕のべ52人 〔実施講座名〕アーサーションによる心地いいコミュニケーション 〔実施日〕令和5年6月10日・11日（全2回） 〔参加者〕のべ17人	このこの健康について考える講座であり、申込率・受講後の満足度ともに高い結果となっている	今後も引き続き実施し、健康を考える機会を提供していく必要がある。	今後も継続して実施する。		人権・男女共生課
		女性に特有な健康課題についての啓発や情報提供に努めた。 〔事業実施名および実績〕 妊娠届出時及び妊婦健康診査受診券交付 届時面接 2,453人	引き続き、事業実施時に女性に特有な健康課題の啓発資料等について情報提供を行う。		継続実施		子育て支援課
135	妊娠・出産期における健康支援を充実します。	妊娠届出時及び妊産婦健康診査受診券交付 届出時面談にて保健指導を行った。また、訪問や面接、電話等にて妊娠・出産期の健康課題について情報提供および指導を行った。 〔事業実施名および実績〕 妊娠届出時及び妊産婦健康診査受診券面接 2,453人 妊娠訪問指導 58人（延べ） 産婦訪問指導 866人（延べ）	妊娠・出産という健康上大きな節目に対し、様々な機会を通して情報提供および指導を行えた。		継続実施		子育て支援課

136	乳がん、子宮がん検診の重要性について周知するとともに、検診を受けやすい環境の整備に努めます。	健診チケットの送付、市広報やホームページでの周知を行うとともに、20歳子宮がん、40歳乳がん検診の無料クーポンを交付し意識づけの向上を図った。また、レディース5がん検診や保育付き検診の実施など、引き続き受診しやすい環境整備に努めた。	レディース5がん検診や保育付き検診の実施によって、一定程度、受診環境の整備がでているが、今後もより一層がん検診受診機会の確保につながる取組を進める必要がある。また、保育付き検診における保育利用者数はそれほど多くないため、より多くの周知が必要である。	受診率は目標値にまだ到達していないため、受診環境を整えるとともに検診の周知に努める。	継続		健康づくり課
-----	--	--	--	--	----	--	--------

(具体的施策 49)性差に応じた健康支援の推進

	施策内容	令和5年度事業の取組と実績	令和5年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
118	性差による疾病や症状等に対し相談に応じるなど、健康づくりの支援に努めます。	随時健康相談として対応し、適切な情報の提供に努めた。	相談業務に対する評価は困難であるが、引き続き、市民が困った時に相談できる人・場の周知を継続する。	市民が気軽に相談を行えるよう、健康相談の周知及び人材の育成に努める。	継続		健康づくり課
119	性差に応じた相談しやすい窓口の整備や情報提供に努めます。	男性のための電話相談を実施した。 女性のための相談(電話・面接等)の充実を図った。	相談件数は、昨年と比較して、電話相談が増加し、面接相談は減少したが、総件数は増加しており、コロナ禍でのストレスが引き続き影響していると考えられる。	相談できる場所の存在意義を再確認しながら、継続して実施していくとともに、多様な媒体を通じた相談体制を検討していく。	今後も継続して実施する。	28・83	人権・男女共生課

(具体的施策 50)リプロダクティブ・ヘルス／ライツ(性と生殖に関する健康と権利)という考え方の浸透

	施策内容	令和5年度事業の取組と実績	令和5年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
120	多様な機会を活用し、リプロダクティブ・ヘルス／ライツについての啓発に努めます。	ローズWAMにおいて、男女共同参画に関する情報の収集、活用、提供を行った。	コロナ禍による施設の利用制限も緩和され、図書等の貸出件数は増加している。SNSでの本の紹介を行うほか、講座等と連動した本の特集展示を行うなどして、図書の利用を促進した。	特集展示を行うなど、資料に出会い機会を継続して設けたが、より一層、図書館資料を活かした取組みを検討する必要がある。	今後も継続して実施する。	23	人権・男女共生課
		保健師等が妊娠婦及び乳幼児の保護者に対する保健指導を通して、情報提供に努めた。また、不妊・不育症治療等の相談窓口についてホームページで周知・啓発した。 〔実施事業名および実績〕 訪問指導 3,825件 面接指導 3,847件 電話指導 3,793件 不育症治療費助成 4件	前年度と比較し、訪問指導、面接指導はほぼ横ばい、電話指導は減少しており、不育症治療費助成は同数であった。	タイムリーな支援ができるよう、事業の調整が必要である。	継続実施		子育て支援課
		思春期のこころとからだをテーマに、学校での出前教育を実施した。 〔事業実施名〕思春期保健事業 〔実施回数〕小学校5校、高等学校2校 計529人	思春期の子どもたちがこころとからだの変化を理解し、妊娠や出産、性に関する正しい知識を身につけるとともに、自分や周囲の人々大切にできることをテーマに、人権・男女共生課や学校教育推進課等関係機関と連携し、小・中学校等における出前型講座を継続して実施していきたい。	中学校からの依頼が0件だった。最も多感な時期である中学生に対しての講座を実施できるよう、周知方法等の検討が必要。	継続実施	142	子育て支援課

(具体的施策 51)子どもの発達に応じたこころとからだの健康づくり

	施策内容	令和5年度事業の取組と実績	令和5年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
140	発達段階に応じて性教育を推進します。	健康診断や身体計測、保健指導等で自分の体を知り、場面や必要性に応じて、絵本やその他の教材を用いてその大切さに気付く機会を持つようにした。	健康診断や身体計測、保健指導等で自分の体を知り、体の大切さに気付くことができた。	今後も引き続き、取組を継続していく。LGBTなどジェンダーに対しても保育者の意識を高めていかないと、気が付かないままになることが今後の課題である。	継続		保育幼稚園総務課
		保健等の学習により、児童・生徒の発達段階に応じた性教育を推進した。	保健等の学習や人権学習授業プラン集パートⅢの活用をすすめた。	当事者の有無に関わらず計画的に学習に取組むことが必要である。	「人権教育授業プラン集パートⅢ」の活用を推進する。		学校教育推進課
141	保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を高めます。	LGBTに関する研修を実施するなど、保育者や教職員の性の多様性や性的マイノリティに対する意識を高める研修等を実施した。	LGBTに関する研修を受講し、保育者や教職員が性の多様性や性的マイノリティに対する意識を深めた。	継続して研修等を実施し、保育者や教職員の意識を高めていく必要がある。	継続		保育幼稚園総務課
		セクシャルマイノリティに関する学習指導案を扱った「人権学習授業プラン集パートⅢ」の活用を促進した。	「人権学習授業プラン集パートⅢ」を活用し、市教育委員会が開催する研修の場で活用をするように周知てきた。	当事者の有無に関わらず計画的に学習に取組むことが必要である。	「人権教育授業プラン集パートⅢ」の活用を推進する。		学校教育推進課

142	子どもの発達段階を踏まえて、妊娠・出産やHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒、性に関する正しい知識を身につけ、適切な行動がとれるよう、学習機会の提供や指導に努めます。	思春期のこころとからだをテーマに、学校での出前教育を実施した。	思春期の子どもたちがこころとからだの変化を理解し、妊娠や出産、性に関する正しい知識を身につけるとともに、自分や周囲の人を大切にできることをテーマに、人権・男女共生課や学校教育推進課等関係機関と連携し、小・中学校等における出前型講座を継続して実施していきたい。	中学校からの依頼が0件だった。最も多感な時期である中学生に対しての講座を実施できるよう、周知方法等の検討が必要。	継続実施	139	子育て支援課
	保健体育科の授業にてHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒等についての授業を実施した。	児童・生徒の発達段階に応じた保健学習を推進することができた。	日常生活につなげていくこと。	児童・生徒の発達段階に応じた保健学習を推進する。			学校教育推進課

(具体的施策 52)健康保持のための健康教育、健康相談等の推進							
	施策内容	令和5年度事業の取組と実績	令和5年度事業の取組と実績に対する評価	事業の課題	今後の方向性	再掲	担当課
143	健康づくりや健診・検診に関する情報を提供するとともに、健康教育や健康相談の充実を図ります。	広く市民等を対象に、男女共同参画に関する講座等を開催した。	こころの健康について考える講座であり、申込率・受講後の満足度ともに高い結果となっている。	今後も引き続き実施し、健康を考える機会を提供していく必要がある。	今後も継続して実施する。	134	人権・男女共生課
		広報誌への毎月の健診情報の掲載や、がん検診受診勧奨はがきなど検診の周知に努めるとともに、随時健康相談を実施し、健康に関する適切な情報の提供に努めた。	受診勧奨はがきの送付等により、受診のきっかけ作りとして一定の効果があったと捉えている。 相談業務に対する評価は困難であるが、引き続き、市民が困った時に相談できる人・場の周知を継続する。	受診率は目標値に到達していないため、受診勧奨の対象者の増加を検討する。	継続		健康づくり課
		保育所等において食育年間計画を作成し、栄養士と連携しながら食育活動を始めた。保育所・幼稚園においては、園・所児が食べるごとを楽しみにできるように日々の生活の中で食にかかわる体験や栽培活動に取り組んだ。	保育所(園)・幼稚園・認定こども園において、食べる意欲や生活の中でのマナー等につなげることができた。	今後も日々の生活の中で食に関わる体験等を様々な教材や経験を通してつなげていく。	継続		保育幼稚園総務課
		保健等の学習や保健委員会などの取組み等、児童・生徒の発達段階に応じて健康教育を実施した。	保健等の学習や保健委員会などの取組み等、児童・生徒の発達段階に応じて健康教育を推進した。	保健等の学習だけでなく日常生活ともつなげていく。	児童・生徒の発達段階に応じた健康教育を推進する。		学校教育推進課
144	コミュニティハウスやいきいき交流広場など、高齢者の介護予防とリフレッシュを目的とした住民主体の通いの場づくりを支援するとともに、通いの場への参加を促進します。	地域の老人クラブ等が運営する高齢者の居場所と仲間づくりの場であるいきいき交流広場の活動を支援した。	利用者数が増加し、地域の高齢者の居場所・通いの場として定着が進んだ。また、広場によっては、活動内容に体操を取り入れるなど介護予防の取り組みにもつながっている。	各小学校区で1か所以上の開設を目指しているが、運営主体である老人クラブの高齢化による担い手不足から、開設が進んでいない。	継続して実施する。		地域福祉課
		コミュニティハウス(19か所)について コミニデイ延利用率:11,566人 コミニデイ介護予防事業延参加者:24,454人 介護予防教室について ①介護予防健康運動教室 〔実施回数〕230回 〔参加人数〕2,785人 ②はつらつ教室 〔実施回数〕255回 〔参加人数〕14,345人 ③短期集中運動教室 〔実施回数〕196回 〔参加人数〕1,417人	コミニデイについて 年2回広報誌で情報提供するほか、事業所紹介冊子を作成した。 介護予防教室について 自宅でもできる体操の啓発に努めた。短期集中運動教室については、実施箇所を4か所から5か所に拡充して実施した。	コミニデイについて 運営者の高齢化が進んでいる、事業所内の後継者育成に取組始めている事業所もあるが、後継者となる年代のスタッフがいない事業所もある。 介護予防教室について 住民主体の介護予防活動に必要な担い手の育成が課題。	コミニデイについて 今後も継続して実施する。 介護予防教室について 住民主体の介護予防活動に重点を置いていく。		長寿介護課